

大豆栽培技術情報

令和5年 ー第1号ー

令和5年7月5日発行

宮城県登米農業改良普及センター

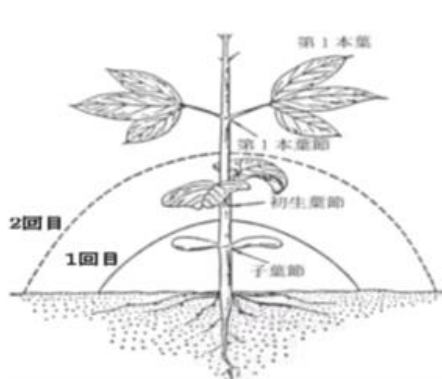
TEL：0220-22-6127

<http://www.pref.miyagi.jp/site/tmnokai>



1. これからの栽培管理

1) 中耕・培土 … 梅雨の晴れ間をぬって計画的な作業を行いましょう！



<普通栽培>

1回目：本葉2～3葉期に子葉節が隠れる高さまで

2回目：本葉6～7葉期に初生葉が隠れる高さまで

<晩期栽培（麦後作）>

本葉5～6葉期に初生葉が隠れる高さまで

図1 中耕培土の目安

- ・倒伏防止、不定根の発生による生育促進・増収、除草、排水と通気性の改善等の効果がありますので、必ず実施してください！！
- ・生育量が多いとき、蔓化したときに培土の高さが足りないと倒伏を招きますので、最終培土時は確実に初生葉の上まで土を寄せてください。
- ・遅い時期の培土は断根や生育遅れを招きますので、最終培土は開花 10 日前までに終了してください。

2) 水管理 … 天気に応じて暗渠を開閉しましょう！

- ・大豆は開花期以降、最も多くの水を必要とし、不足すると落花・落莢や百粒重の減少により減収しやすくなるので、晴天が続く過乾燥となる恐れがある場合は、暗きよの水閘を閉じて水分保持（地下かんがい）する等の対策を行ってください。
- ・畝間かん水が可能な場合は実施しましょう。ただし、特に大区画ほ場では湿害を避けるため数回に分けて行い、通水したらすぐに暗きよを開けて落水してください。

3) 適正な追肥 … 生育量に応じて追肥を検討しましょう！

- ・湿害で葉色が薄い、生育が極端に悪く根粒菌がついていないなどのほ場では、最終培土時に緩効性肥料、または、開花期に速効性肥料を追肥します。
- ・窒素が多いと根粒菌の働きが悪くなりますので、生育が順調で根粒菌がしっかりついているようなほ場では追肥は必要ありません。

4) 開花期以降の病害虫防除

…**病害虫の発生状況に応じて農薬を散布しましょう!**

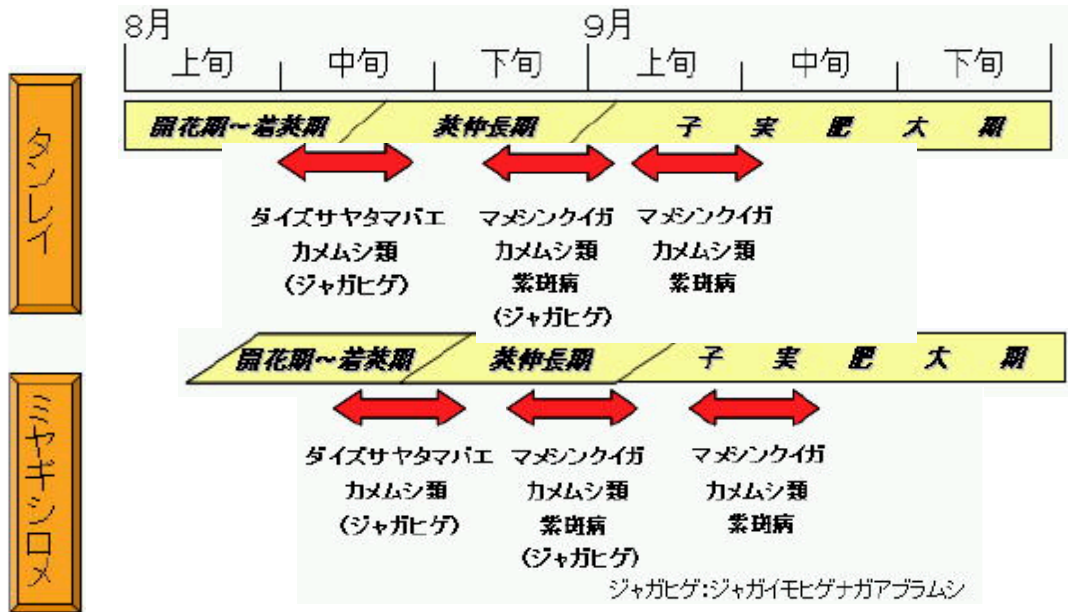
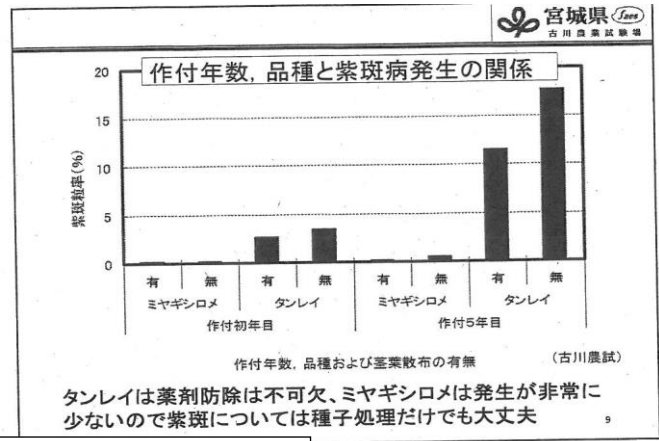
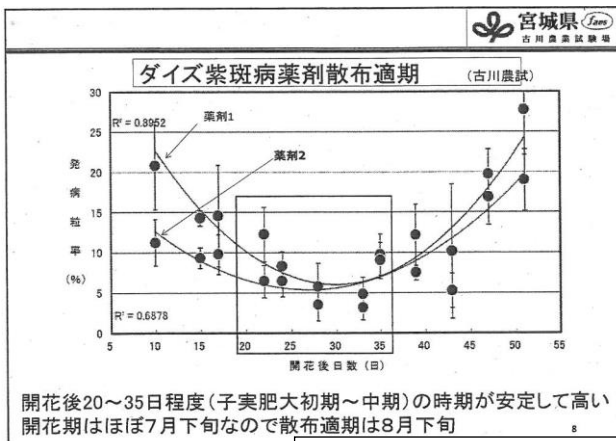


図2 大豆病害虫の防除体系（防除時期と対象病害虫）※病害虫防除所作成を一部修正

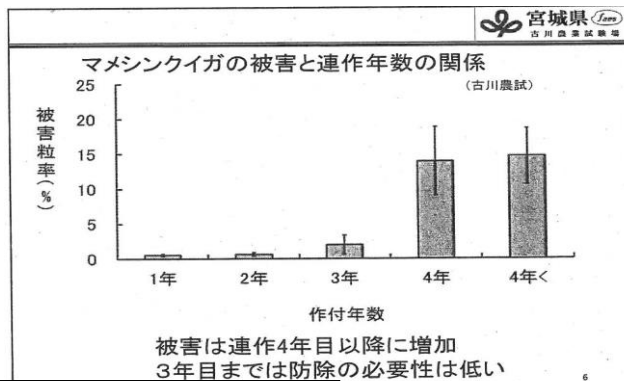
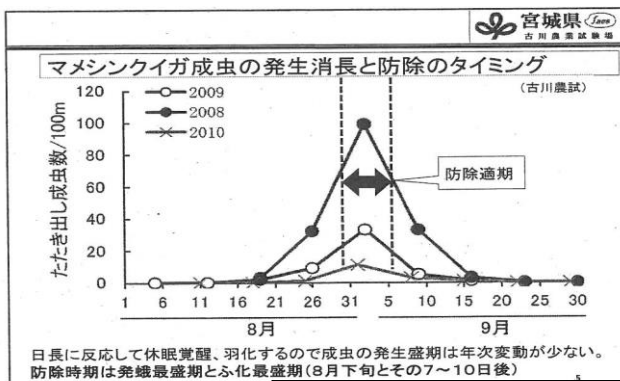
紫斑病



宮城県大豆研修会資料（平成30年7月）から抜粋

- 紫斑病防除のタイミングは開花 20～35 日後程度です。
- 紫斑病抵抗性は、タチナガハ・ミヤギシロメ・すずほのかが「強」、あやこがね・タンレイが「中」となっています。紫斑病防除は、「強」の品種については1回、「中」の品種については2回防除（1回目の防除後7～10日後に2回目防除）しましょう。
- 同一薬剤の連用は耐性菌が発生しやすいので避けてください。

マメシクイガ



宮城県大豆研修会資料(平成30年7月)から抜粋

- ・連作年数の多いほ場(3年以上)では、マメシクイガ中心の防除体系を組み立てましょう。
- ・マメシクイガ防除は成虫発生盛期に1回目、1回目の7~10日後に2回目の防除が基本です。
- ・マメシクイガは同一地域内での発生に年次変動が少ないので、防除は毎年同じ時期に行い、その他の病虫害防除は大豆の生育に合わせて行ってください。

農薬危害防止運動実施中 (6月1日から8月31日まで)